

# 日曜特番

## 熱い沿道「能登は格別」

本社記者ルポ

きらびやかな銀輪の列に、沿道から大きな歓声が送られた。16日に開幕したツール・ド・のと400。全国各地に自転車大会はあれど、爱好者の多くは「能登は格別。やみつきになる」と口をそろえる。人気の理由は何か。サイクリスト同行し、能登の海岸線を進むと、明治期の北國新聞社自転車大競走に通じる沿道の熱氣があった。

(社会部・北脇大貴)  
午前7時前、スタート地点の金沢市の県西部緑地公園には全国約570人が集まり、今が今かと号砲を待っていた。常連も多く、選手同士の絆は深い。出发前からお祭りムードが漂つ。沿道も楽しげだった。

「頑張って」「いつらっしゃい」。能登らしい黒い瓦屋根が続く住宅前で、孫を抱きかかれた高齢者が手を止め、笑顔を向けた。道ばたビーチ椅子に座って観戦する人も。この日を楽しみにしていたようだ。

ひととき大きな歓声が飛んでいたのは、輪島市門前町の曹洞宗大本山總持寺祖院に近い總持寺通り商店街。初日のコースで最も難所と言われる海拔200mを超える山峯にさしかかる直前だ。



奥能登の海岸線を  
列を組んで疾走す  
るサイクリスト  
=輪島市門前町

参加者に熱い声援を  
送る地域住民  
=輪島市門前町の總  
持寺通り商店街



### 三大老舗レースの一つ

和泉市の辻川登志子さん(61)は、「沿道の笑顔と声で力が湧いた。今年の目標は全ての声援に笑顔で応えることです」とほほ笑んだ。

「ツール・ド・のと」はタイムを競う賞金レースとは違う。起伏に富んだ能登の景観美、地元の温かなサポートが名物。国内の自転車レースでは、北海道、沖縄、そして能登が三大老舗レースと言われる。そのとが35回の歴史を重ねたのは、選手の奮闘に地域が応え、もてなしの輪を広げてきたからだろう。

1906(明治39)年、北國新聞社が主催した「自転車大競走」は、長距離ロードレースとして北陸で初めて行われ、大盛り上がりとなった。当時の北國新聞には、選手が黒山の人ばかりをかきわけて尾山神社前を出発したとの記事が載る。レースは、千たちは夜、能登のおいしい料理と美酒で疲れを癒やした。銳気を養い、最終日まで能登一周を走りきる。117年前に負けられないドラマがまだまだ繰り広げられそうだ。

金沢市の「スポーツサイクル・イシノ」が、パンクなど参加者の愛車のトラブルに対応した。石川県内で最も古い明治26年に創業し、同39年の自転車大競走

明治から自転車店  
愛車トラブル対応  
金沢「イシノ」



自転車のサドルやペダルを調整する石野さん  
=志賀町内

コース上の各ポイントでは、石川県産ひやくまん穀を使つたおにぎりやいなげし、おはざが振る舞われた。JAグループ石川

川が提供した。泉丘高2年生の宮本夏樹さん(17)は、「コメがふっくらしておいしく、疲れた時に食べるのにぎりは格別だ」と話した。

穴水総合病院、3日目は救护车で乗車した。医師は、初日は大きなトラブルがなくほっとした」と振り返った。2日目は公立



出場者をサポートした救急医療支援チーム  
=輪島市マリンタウン

ドクターカー出動、健

康と安全見守る。金沢医科大病院は初日、

金沢医科大病院

で力が湧いた。今年の目標は全ての声援に笑顔で応えることです」とほほ笑んだ。

「ツール・ド・のと」はタイムを競う賞金レースとは違う。起伏に富んだ能登の景観美、地元の温かなサポートが名物。国内の自転車レースでは、北海道、沖縄、そして能登が三大老舗レースと言われる。そのとが35回の歴史を重ねたのは、選手の奮闘に地域が応え、もてなしの輪を広げてきたからだろう。

1906(明治39)年、北國新聞社が主催した「自転車大競走」は、長距離ロードレースとして北陸で初めて行われ、大盛り上がりとなった。当時の北國新聞には、選手が黒山の人ばかりをかきわけて尾山神社前を出発したとの記事が載る。レースは、千たちは夜、能登のおいしい料理と美酒で疲れを癒やした。銳気を養い、最終日まで能登一周を走りきる。117年前に負けられないドラマがまだまだ繰り広げられそうだ。

和泉市の辻川登志子さん(61)は、「沿道の笑顔と声で力が湧いた。今年の目標は全ての声援に笑顔で応えることです」とほほ笑んだ。

「ツール・ド・のと」はタイムを競う賞金レースとは違う。起伏に富んだ能登の景観美、地元の温かなサポートが名物。国内の自転車レースでは、北海道、沖縄、そして能登が三大老舗レースと言われる。そのとが35回の歴史を重ねたのは、選手の奮闘に地域が応え、もてなしの輪を広げてきたからだろう。

1906(明治39)年、北國新聞社が主催した「自転車大競走」は、長距離ロードレースとして北陸で初めて行われ、大盛り上がりとな

った。救命救急科の中嶋謙斗医師は、「初日は大きなトラブルがなくほっとした」と振り返った。2日目は公立

穴水総合病院、3日目は

金沢医科大病院が担当す

る。

金沢医科大病院は初日、

金沢医科大病院

救急医療支援チームを派遣した。医師や看護師がドクター車に乗り込み、けが人を手当するなど、出場者の健康と安全を見守った。救命救急科の中嶋謙斗医師は、「初日は大きなトラブルがなくほっとした」と振り返った。2日目は公立

穴水総合病院、3日目は

金沢医科大病院が担当す

る。

金沢